

平成23年10月6日

医学系研究科附属動物実験施設 利用者各位

SPF 項目から肺パスツレラを削除する事について

医学系研究科附属動物実験施設 施設長 笠井憲雪

この度、医学系研究科附属動物実験施設では、マウスの微生物モニタリングの項目のうち、肺パスツレラの微生物カテゴリーについて検討しました結果、以下のようにレベルダウンする事としました。

これまで、当施設における肺パスツレラについては、(財)実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター^{注1} (ICLAS) より提示された「カテゴリーC：動物を致死させる事はないが発病の可能性があり、発病しなくても生理機能を変化させる恐れがある、あるいは不顕性感染を起こす微生物」を踏まえて specific pathogen に位置付け、微生物モニタリングを行なってきました。

しかし、近年、肺パスツレラは病原性がほとんど認められない等の新知見が明らかとなり、そこで、ICLAS は平成23年4月1日付けで、肺パスツレラの微生物カテゴリーを見直し、C から D にレベルダウンする事を発表しました (http://www.iclasmonic.jp/microbiology/category/category_d.html)。この発表は、ICLAS としては肺パスツレラを「カテゴリーD：日和見病原体」、すなわち、「健康な動物の菌叢にしばしば紛れ込んでいる微生物で、免疫学的に正常な動物においてはほとんど発病せず、ごく稀に病気を誘発させる程度の日和見病原体」と位置付けた事を意味します。

当施設のマウスの微生物モニタリングについては、これまで ICLAS の微生物カテゴリーを参考にしてきましたが、今回のカテゴリー変更に伴い、当施設における本菌の扱いについてもカテゴリーD にレベルダウンする事としました。当施設においては、これまでカテゴリーD に属する緑膿菌等については SPF 項目としていなかった事から、肺パスツレラについても10月6日付けで SPF 項目から削除する事をご報告いたします。

ご不明な点については、末田輝子 (tetuko3@med.tohoku.ac.jp) までご連絡下さい。

注1：ICLAS モニタリングセンターとは、実験動物の微生物学的・遺伝学的品質の向上を目的として設立された日本の中核となる検査機関です。